ひとつのヨーロッパ

東欧遍歴

佐久間 穆

朝日新聞社

佐久間　穆（さくま・ぼく）
朝日新聞編集委員。
1924年上海に生まれる。1953年東京大学文学部卒業，朝日新聞に入社。1961～62年西ドイツ特派員。1967～71年ボン支局長。1971～74年外報部次長。1974～77年ウィーン支局長をへて現職。
〔訳書〕ハンス・ヘニー・ヤーン『鉛の夜』（現代思潮社刊），エミール・シュルテス『中国』（朝日新聞社刊）

もうひとつのヨーロッパ

定価860円

発行日	1979年6月20日　第1刷
	1979年11月10日　第2刷
著　者	佐久間　穆
発行者	朝日新聞社　藤田雄三
印刷所	図書印刷株式会社
発行所	朝日新聞社　東京　大阪　名古屋　北九州
	〒100　東京都千代田区有楽町 2-6-1

©BOKU SAKUMA 1979　0022-254672-0042

目次

はじめに　5

I

ユーゴスラヴィア

民族のるつぼ　15
望郷の輪舞　19
不在の民族　23
屈辱の故地　26
自主管理(上)　30
自主管理(下)　33
チトー以後　39

アルバニア

青年の国　45

イリュリアの血　49
リリンジャの伝統　53
ブルガリア
白きドナウ　61
老学者の嘆き　65
光と影　68
ルーマニア
ダキアの血　75
ルーマニア化　78
工業国への道　82
II
ハンガリー
アジアの民　91
五六年十月　94

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

静中動あり　101
ドナウの守り　105
チェコスロヴァキア
確執の果て　111
憲章77(上)　115
憲章77(下)　120
〝かなわぬ恋〟　124
物神崇拝　130
ポーランド
苦汁の歴史　137
民族の認識票　140
歴史的妥協　145
〝民族移動〟　150
不毛の対話　156

Ⅲ
疑心暗鬼 163
分たれた空 167
Ⅳ
流浪の民(上) 175
流浪の民(下) 178
ドルと女 184
ドルの暗影 189
あとがき 200

装幀　多田進
装画・カット　佐久間穆
地図　吉沢家久

はじめに

シベリア鉄道がウラル山脈を越える峠の駅にヨーロッパとアジアを分つ道標が立っている。かつて故ドゴール仏大統領は「ウラル山脈以西がヨーロッパである」とモスクワで演説した。ロシアも立派なヨーロッパの国だというのである。だが、一九七〇年、ブラント西ドイツ首相に同行してモスクワを訪れた折、私は西ドイツの記者たちが口ぐちに「アジアだ。アジアに来たんだ」と語り合っているのを耳にし、奇異の感に打たれた記憶がある。かれらが本気でアジアの地に立ったと信じていたとは思わない。しかし、私は、二十世紀イギリス最大の歴史家といわれるアーノルド・トインビー教授が、どこかで「ヨーロッパ半島のすぐ背後に横たわるロシアは、近々二百五十年のあいだに、どうにかヨーロッパに溶接された部分にすぎない」と書いていたことを思い浮かべた。

西ドイツの記者たちが、トインビー教授の意見に影響されていたわけではあるまいが、

かれらが、かれらの頭のなかに描かれている「ヨーロッパ」とは質を異にした土地に来たのだ、と感じている様子は、私にも読みとれた。

イギリス人はしばしばヨーロッパ大陸の諸国と同一視されることをきらう。イタリア人やギリシャ人にとって、ヨーロッパは地中海と切離し難く結びついた概念である。一般に、ヨーロッパとはギリシャ・ローマの古典文化とキリスト教に支えられた歴史的、地理的空間だといわれるが、トインビー教授をまつまでもなく、これはきわめて茫漠たる定義のように思われる。

もっとも、こうしたあいまいな存在であるヨーロッパ（欧州）のなかで、いまいわれている「東ヨーロッパ」ないし「東欧」は、逆にきわめて明確な政治的空間を定義した呼称だといえよう。それは、西ヨーロッパの百科事典の「東ヨーロッパ」の項にある「東ヨーロッパ」ではない。たとえば、西ドイツのブロックハウス百科事典では、その範囲を「主としてウラル山脈以西のロシア」と限定しているし、ポーランドを「中部ヨーロッパ」の項で説明している。ウィーン大学の東ヨーロッパ・東南ヨーロッパ研究所の研究領域も、事典にある地理的な「東ヨーロッパ」ではない。

チェコスロヴァキアの歴史の教科書には、その首都プラハは「ヨーロッパの心臓」に当

る、と記してあるし、ポーランドで発行された「要覧」にも「ポーランドはヨーロッパの中心部に在る」となっている。またブルガリアやユーゴスラヴィアは、歴史的に東南ヨーロッパないしバルカン諸国と呼ばれるのが通例である。

したがって、現在の「東ヨーロッパ」は、歴史的、地理的空間というよりも、人工的な空間というべきものだ。東西に分割されたドイツを縦断する境界線が「東ヨーロッパ」の西の限界の一部を形成していることからも、その事実はうかがえるし、ヨーロッパの最も東部に位置するソ連が、この「東ヨーロッパ」に加えられぬ慣行もそれを証明していよう。

したがって、現在、この「東ヨーロッパ」と呼ばれている地域にいかなる国々が属しているかをあげることは容易である。というよりは、これらの国々の存在する地域が「東ヨーロッパ」と名づけられているのだから、当然のことだ。つまり、北からポーランド、東ドイツ、チェコスロヴァキア、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、ユーゴスラヴィア、アルバニアの八か国がそれである。

これらの国々はすべて第二次世界大戦後、社会主義体制をとった国々であって、ブルガリア、ユーゴスラヴィアと同じくバルカン半島にありながら、戦後、激しい内戦の末、資本主義体制にとどまったギリシャは「東ヨーロッパ」に加えられていない。首都ウィーン

が経度のうえで、チェコスロヴァキアの首都プラハよりはるか東方に位置しているのに、中立主義に立つオーストリアもそうだ。

いつから、この「東ヨーロッパ」という現在の呼称が定着したのか定かでないが、一九四七年、チェコスロヴァキアがソ連の圧力によって、アメリカのヨーロッパ復興計画マーシャル・プランをあきらめ、ヨーロッパにおける冷戦構造が決定的となったころであろう。それからすでに三十年の歳月が流れた。一九四八年のユーゴスラヴィアとソ連の決裂、一九五六年のポーランド、ハンガリー動乱、一九六八年のチェコスロヴァキアに対するソ連の軍事介入と、ほぼ十年おきに大きな危機を経験しながら、この領域は「東ヨーロッパ」としてとどまりつづけてきた。

当然のことだが、いぜん多くの問題をかかえてはいるものの、戦争だけは回避してきた平和なこの三十年間に「東ヨーロッパ」は着実な経済発展をとげてきた。一九七五年夏、ヨーロッパ安全保障協力会議のしめくくりにヘルシンキで開かれた首脳会議で、ソ連はその勢力圏としての「東ヨーロッパ」が動かし難い政治的現実であることを参加三十五か国に認知させることに成功した。二年後の一九七七年夏、ベオグラードでこの会議の結論の履行状況が点検されたが、米ソに〝緊張緩和〟を台無しにする意思はなく、アメリカの人

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

権攻勢をもってしても、この「東ヨーロッパ」の定義は微動だにしなかった。

だが、これはあくまでも外側からの規定である。私はウィーンに三年半滞在し、東ドイツ、アルバニアを除く東ヨーロッパ六か国に足しげく通ったが、内側からながめた東ヨーロッパは、「社会主義圏」とか「東側」とかいったカッコでくくれるほど単純な世界ではなく、国ごとに多彩な顔を持っていた。それは、フランス、イギリス、ドイツを中心として私たちがなじんできたヨーロッパとはたしかに異った顔であった。だが、なじみがないとはいえ、それはあくまでもヨーロッパのものであった。そして、そのヨーロッパは東ヨーロッパというより、〝もうひとつのヨーロッパ〟と呼んだ方がふさわしいものだと私には思われた。

ベルリン
東ドイツ
ポーランド
ワルシャワ
ソ連
プハラ
西ドイツ
チェコスロヴァキア
ウィーン
オーストリア
ブダペスト
ハンガリー
ルーマニア
ユーゴスラヴィア
ベオグラード
ブカレスト
イタリア
ソフィア
ブルガリア
黒海
チラナ
アルバニア
ギリシャ
トルコ

I

ユーゴスラヴィア

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com